職場環境を一層向上させ歴史ある看板を未来へ紡ぐ

代表取締役　**鈴木 寿博**

精密板金加工を主業務とする『鈴木工業所』は、個人事業の時代も含めると 50 年以上の歴史を誇る。2016 年 6 月の法人化を機に三代目となる鈴木社長が就任し、心機一転のスタートを切ったばかりだ。本日は俳優の穂積隆信氏が同社を訪問。先代から事業と人を継ぎ、改革を進める社長にお話を伺った。

穂積　はじめに、御社の歴史からお聞かせいただけますか。

鈴木　当社は精密板金加工を手掛ける会社として、祖父が 50 年以上前に創業しました。私が小学生の時に父が事業を引き継ぎ、2016 年 6 月の法人化を機に私が代表職を務めることになって今に至ります。

穂積　社長は学業を終えられて、すぐにこちらに入られたのですか。

鈴木　いえ、大学卒業後は金融関係の仕事に就きました。けれども 30 歳を迎える直前、このまま今の仕事を続けていても自分は成長しないと感じまして。それで 30 歳で退社して家業に入りました。

穂積　その時点では、もう後を継ごうと思っていらしたのですか。

鈴木　そうですね。異業種からの転身ですから、1 からということも分かっていましたが、決めたからにはやるしかないという覚悟で戻ってきました。そこから 7 年間経験を積みましたが、父から板金業界は上り調子の業界ではないので、事業を畳むつもりだという話を聞きましてね。それではここまで頑張ってついてきてくれた従業員さんに申し訳ない。それぞれのご家族の生活も背負っているという責任も感じ、私が法人を立ち上げて事業を引き継ぐことにしたのです。

穂積　決断の決め手になったものは、やはり従業員さんの存在ですか。

鈴木　はい。簡単に投げ出すわけにはいかない。責任を全うしたいという思いでした。幸い 10 名足らずの従業員は、それならと応援してくれることになり、本当にありがたかったですね。この仕事をはじめてからの 7 年間は無駄ではなかったと実感しました。

穂積　その中で信頼関係を培ってこられたということですね。御社の強みはどんなところでしょう。

鈴木　技術力はもちろんですが、団結力があるところでしょうか。また、経営者としては、一人ひとりが力を発揮でき、

働きやすい職場をつくることを目標としています。言いたいことを言える風通しの良い社風と、いきいきと仕事ができる環境。そういった部分でも、どこにも負けない企業にしていきたいですね。

穂積　人を大事にされていることが伝わってきます。

鈴木　従業員さんがいるからこそ、会社が成り立つのですから、当然のことだと思っています。今は経営者として、技術者をサポートすることが私の役割で、そこに注力していきたいですね。

穂積　では最後に、今後の展望を。

穂積　まずは古い建物を新しくして、より働きやすく、女性にも来ていただけるように環境を整えたいですね。そしてまた、新しいことにも挑戦していければと思っています。

（2017 年 5 月取材）

通信機筐体 精密板金加工

株式会社 鈴木工業所

茨城県石岡市正上内 11 番 5 号

「鈴木社長は 38 歳という若き経営者。従業員さんは長くお勤めの方も多く、社長よりも年上の方ばかりだそうです。そんな皆さんが社長を守り立て、社長もまたそれに応えながら一丸となってお仕事をされている様子が素晴らしいですね。今後のさらなるご発展を楽しみにしています！」

穂積 隆信

© 2017 HOUDOU-TSUSHINSYA Co.,Ltd.